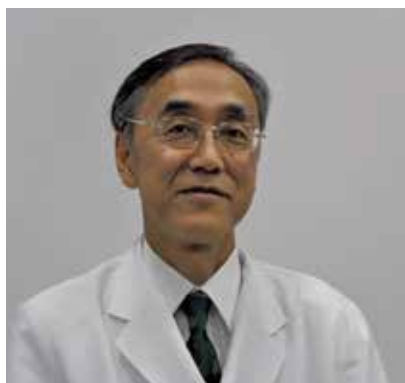


本事業の5年間を振り返って



事業統括責任者：

筑波大学医学医療系臨床医学域 消化器外科学

教授 大河内 信弘

がんプロフェッショナル養成プラン（通称 がんプロ）は、2008年に策定された“がん対策基本法”、さらには、それに基づく“がん対策推進基本計画”に呼応する文部科学省の10年に渡る活動である。最終的には患者への医療として還元される事が目標であるが、がんプロは文部科学省の大学院教育に軸足を置く医療人養成が主目的の活動である。しかし、実際の活動では大学院外の医療者への教育、がん研究の遂行、がん患者への医療の施行、さらには社会へのアウトリーチ活動など、枠組みを越えた活動との強い連携が不可欠であり、それらとの整合性に苦心した。さらに、がんプロ活動に求められた重要な点は、大学間連携、多職種間連携の実施である。本拠点は、筑波大学、千葉大学、群馬大学を始めとする北関東を中心とするエリアを俯瞰する形で形成し、医学、薬学、看護学、ならびに医学物理学の有機的な連携に挑戦した。

本拠点が積極的に推進したしくみが「プログラムジュークボックス構造」をベースにする「がんプロ全国e-learningクラウド」である。今まで、各大学、各分野にそれぞれ貴重な教育資源は存在していたが、距離の壁、組織の壁を超える事ができず、大学院生がそれらの恩恵を享受する機会は極めて限られていた。このしくみを5年間で本拠点だけではなく、全国のがんプロ拠点に広く活用するシステムとして整備することにより、がんプロ事業全体の発展に大きく貢献できたと自負する所である。

また、筑波大学の陽子線、群馬大学の重粒子線という日本を代表する2つの放射線センターを擁する事も本拠点活動の大きな特徴である。放射線腫瘍医のみならず、医学物理士という放射線医療に不可欠な職種の認知、養成に寄与出来た事も大きな成果であった。

第1期がんプロで腫瘍内科医（medical oncologist）という欧米では極めて当たり前であった職種の認知からスタートして、第2期がんプロでは千葉大学、群馬大学にその講座を設置する事ができ、日本医科大学と強く連携をして活動を展開した。筑波大学でも2015年から講座を開設し、それぞれの大学でこの講座が中心となってキャンサーボードを開催するにいたった事も、癌治療にあたる医師のon the job trainingに大きく貢献できたと考える。

2016年12月9日に改正がん対策基本法が成立し、小児がん、希少がんやがんサバイバーへの社会支援が求められる事になった。がんプロの10年で培ったネットワークを有効に活用し、今後がん医療に資する医療人の養成を継続して行っていきたい。